

令和 4 年度 学校評価シート

学校名：和歌山県立きのくに青雲高等学校（定）		校長名：阿形 武芳		
学校評価の公表方法		現状・進捗度	A	十分に達成している。（80%以上）
・育友会総会等を通じて保護者への周知を図る。 ・ホームページに掲載する。			B	概ね達成している。（60%以上）
			C	あまり十分でない。（40%以上）
			D	不十分である。（40%未満）
目指す学校像・育てたい生徒像（スクール・ポリシー等に基づいて記載する）				
・教育活動を通して、社会におけるルールやマナーなど社会生活に必要な社会性を養う。 ・社会的自立に向けた基礎学力やコミュニケーション能力を身に付け、適切な職業観・勤労観を持ち、地域社会に貢献できる資質・能力を育成する。 ・学校生活を通じて、自己肯定感、自己有用感を高め、互いの多様性を認め合い協働することができる姿勢を育成する。 ・平和で民主的、持続可能な社会の形成に向けて、主体的に参画できる資質・能力を育む。				

自己評価（分析、計画、取組、評価）								学校関係者評価 （令和5年2月実施）	
番号	計画・取組				評価（3月8日現在）			○以下の評価項目について、高い評価をいただいた。 ・本校の教育目標はわかりやすく示されているか。 ・本校の生徒は明るく生き生きと学校生活を送っているか。 ・本校の教育活動に保護者や地域の意見を取り入れているか。 ・本校には他校にない特色があるか。 ・本校は生徒に対して分かりやすく充実した授業を行っているか。 ・本校では、基本的な生活習慣や規範意識を身に付けるため適切な指導が行われているか。 ・本校では、生徒が将来社会人として生きていくための取組は十分行われているか。 ・本校の学校行事等は充実しているか。 ・本校では、生徒の健康や安全に関する指導が適切に行われているか。 ・本校では、校舎、校庭、教室の環境美化や整理整頓ができているか。 ・本校の施設・設備が充実しているか。 ○以下の評価項目について、次年度に向け改善を要するとの評価をいただいた。 ・本校は保護者や地域の方々と連絡・連携がうまくとれているか。 ・本校の生徒会活動や部活動は活発であるか。 ・本校では、進路に関する情報提供に努めていると思うか。 ○以下の意見をいただいた。 ・新型コロナウイルスの対策を行いつつ、学校に通学することで、学力向上や卒業後の社会生活を養っていくことも必要である。また、卒業後に社会との関係が閉ざされないように、サポートステーションやハローワークとの連携が大切になってくる。	
	重点目標	現状	具体的取組	評価項目と評価指標	進捗度	進捗状況	今後の改善方策		
1	・少人数での学習指導やICT機器の有効活用、基礎学力の定着を図るための学び直し学習など「わかる授業」に取り組む。	C	・生徒の実態に即した授業内容を工夫し、達成感や自己肯定感を養うことを目指す。 ・教育内容を精選し、社会貢献や実社会で役立つ学力の向上を目指す。 ・公開授業や研究授業を通じて、授業改善を図り、言語活動の充実を中心に据えた魅力ある授業の確立を目指す。	・達成感や自己肯定感を持たせる授業を実施する。 ・授業改善を行うことにより、単位取得率の向上を目指し、卒業率の向上につなげる。 ・卒業後に自立した市民として役立つ力を育む授業を実施する。また、「総合探究」の調べ学習を通して多方面からふるさと和歌山への興味・関心を高める。 ・公開授業または研究授業を教員当たり年1回以上実施する。また、授業において、「書く」「話す」活動を中心にした言語活動を充実させる。	B B A	各教員は、生徒が自ら学び、達成感を感じられる授業を意識して取り組んだ。卒業率は前年度と比較してわずかに減少した。 実生活に役立つ基礎学力の向上を目指し取り組めた。地元和歌山について歴史や文化等についての学習を行った。 すべての教員が公開授業を行う形にしており、その中で「書く」「話す」などの言語活動を積極的に取り入れた授業を実践した。	・卒業率は、年度当初の卒業予定者の約86%であった。次年度以降も卒業率の向上に向けて粘り強く指導を行っていきたい。 ・また、言語活動や学び直しを取り入れた授業を行い、生徒が達成感や自己肯定感をより感じられるような工夫や仕掛けを盛り込み授業をより充実させていきたい。		
2	・地域の外部機関とのネットワークを活用し、自己の在り方・生き方をデザインするキャリア教育を計画的に行う。	C	・個人面談や面接指導等を積極的に行い、進路希望の実現を目指す。 ・企業説明会・進学説明会、オープンキャンパス等への積極的な参加を促し、進路ガイダンスやキャリア講演会等を通して生徒に明確な進路目標を持たせる。 ・進路LHRや個別相談等でサポートステーション和歌山と連携し、生徒の進路意識を高める。	・学級担任や進路指導担当者との面談を密に行う。 ・就職指導員を活用し、希望の実現を図る。 ・進学希望者への体験入学等や就職希望者の就職説明会等への参加を促し、進路決定へとつなげる。 ・進路ガイダンス及びキャリア講演会の更なる充実を図り、生徒の内的な動機づけを行う。 ・サポートステーション和歌山と連携し、多面的に生徒をサポートする。	B A B	・卒業予定者や担任とは密に連絡を取り、常に個々の生徒の進路希望の把握に努めた。応募前職場見学生徒数も延べ21名に及んだ。 ・今年度は3年ぶりに学校行事として業者依頼の進路ガイダンスを実施することができた。 ・進学ではオープンキャンパス参加を奨励した結果、専門学校や四年制大学への合格者を増やすことができた。大学入学共通テストを受験する生徒もあった。 ・サポートステーション和歌山と連携を取り、今年度は図書館で座談会を開催し、生徒との会話の中で進路意識を高めることができた。	・早い時期から生徒が進路意識を高めて、自らの進路目標を設定できるようにしたい。そのためにも引き続き進路ガイダンス等の充実を図って行きたい。 ・進学関係では今年度、四年制大学合格で複数の生徒が好結果を挙げているので、これを契機として次年度以降も継続することを期待したい。また、進学する生徒が増加傾向にあることから、最新の進学情報を活用し、具体的で効率的な進学指導も今年度以上に実施して行きたい。 ・生徒、家庭、地域との連携を深め、有用な情報を発信していくためには、ホームページを充実させる必要がある。		
3	・生徒を支援する制度の充実と全教員による組織的な支援と指導を行う。	C	・指導方針・生徒の状況等について全職員の共通理解を図り、多様な問題行動に対する適切な指導方法等を組織的に検討していく。 ・生徒の課題を早期に発見し、登校・授業参加の動機付けのため、生徒が相談できる「居場所」を中心に、生徒支援の充実を図る。また、SC・SSW等を更に活用し、関係機関との連携に努め、迅速・適切な対応を図る。 ・交通講話や非行防止教室を通して交通安全や薬物乱用に対する意識の向上を図る。	・生徒情報を共有するために、職員会議等で常に情報交換を行うと共に、「個人記録カード」の活用の充実を図る。 ・「居場所」により生徒支援の充実を図り、不登校の解消や授業参加率を高める。 ・支援委員会を開き、定期的な情報交換を行い、関係機関との連携等により問題解決を図る。 ・保護者との連絡、面談や家庭訪問の機会を増やす。 ・警察署等の関係機関から講師を招聘して講演会等を開催する。また、科目「保健」とも連携させ望ましい行動に結びつけるための取組を進める。	B A A	・多様な生徒に応じたきめ細かな支援のために「個人記録カード」を活用することができた。さらなる充実と活用を目指す。 ・クラス担任を中心とし、生徒支援のための情報共有を密に行うことができた。また、保護者とも連携を深め、SC・SSW等を有効に活用し、生徒支援につなげることができた。 ・関係機関から講師を招聘し、講演会等を行った。科目「保健」と連携させることで、生徒の理解を深め、意識を向上させることができた。	・多様化する生徒に応じた支援を行うため、外部機関や保護者とのさらなる連携強化の機会を確保していく。また、生徒一人一人に最適に対応していくため、現職教育や情報提供の充実を図る。 ・生徒指導と教育相談が一体となった支援と指導のさらなる充実を目指す。アセスメントに基づき、声かけやコミュニケーション力、共感性等の社会的資質・能力を育む。注意深く生徒を見守り、予兆等から諸課題の発生を早期に発見し対応することで深刻化を防止する。さらに、組織的に対応し、関係機関とも連携しつつ、指導・支援を行っていく。		